

八戸初「子ども食堂」15日開設

八学短大・佐藤教授とゼミ生3人



八戸市で初の子ども食堂の開設に向け、準備を進める佐藤千恵子教授(中央)と学生10日、八戸市の八戸学院短大

広がれ 貧困支援の輪

子どもの貧困対策の一つとして、全国で取り組みが広がっている「子ども食堂」。八戸市でも15日から、来年2月までの期間限定で開設される。仕掛け人は、八戸学院短期大で食育を専門とする佐藤千恵子教授と教え子の学生3人だ。ゼミ活動の一環として実施する予定だが、学生らは市内に支援の輪が広がることを期待。子どもに限らず、一人親や高齢者まで、さまざまな人が寄り添える居場所を目指した、市内初の試みがスタートする。

(玉川那津美)

来年2月まで期間限定 高校生まで無料

子ども食堂 貧困への対応や孤食の防止を目的とした民間の取り組み。多くは寄付された食材を用い、ボランティアで調理した上で、低価格、もしくは無料で食事を提供する。子どもが1人でも入りやすいように「子ども食堂」と称して

「最終的には子ども食堂をやりたい」という目標を掲げて準備に取り掛かったものの、運営の仕方などが分からずに難航。そんな中、佐藤教授が「子どもレストラン」の複数の知り合いが興味

「最終的には子ども食堂をやりたい」という目標を掲げて準備に取り掛かったものの、運営の仕方などが分からずに難航。そんな中、佐藤教授が「子どもレストラン」の複数の知り合いが興味

「最終的には子ども食堂をやりたい」という目標を掲げて準備に取り掛かったものの、運営の仕方などが分からずに難航。そんな中、佐藤教授が「子どもレストラン」の複数の知り合いが興味

いるが、大半が対象を限定せず、子どもから大人まで集まれる地域連携の場所として機能している。2012年から開設の動きが始まった。14年に子どもの貧困率が公表されて以降、急速に支援の輪が広がり、全国に300カ所以上あるとされる。

11月15日開催分に関しては、前日の14日まで受け付ける。問い合わせ、予約は八学短大の佐藤千恵子教授へ電話0178(30)210911へ。

「またむら食堂」は11月15日、12月20日、1月17日、2月21日の予定で、時間は午後5時〜7時。「あおば食堂」は12月10日、1月7日、2月4日の予定で、時間は正午〜午後2時。いずれも20食限定で、事前の申し込みが必要となる。

を申し、食材や場所の提供などに関して既存店の協力を得て、開設にこぎ着けることができた。場所は三日町の「はっち」2階にある「またむら食堂」、柏崎2丁目の「あおば食堂」で、子ども食堂として開放するのは月1回。高校生までは無料、大人は300円だ。学生らは料理を作ったり、接客したりして来訪者を迎える。「やってみたいけれど、始め方が分からないという人が多い。私たちがきっかけに、同じ思いの人が集まり、機運が高まってくれれば」。佐藤さんは実体験を踏まえて期待を込める。弘前市では、社会福祉法人弘前愛成園が「子どもレストラン」の複数の知り合いが興味

以降、同市内の子ども食堂が3カ所に増えた事例がある。佐藤教授は「この活動を始めるまで、学生には日本が貧困という発想がなかった。知らなかった世界を見ることは勉強になる」とした上で、子ども食堂を開設する意義について「地域の人々が自由に集まれる場所ができれば、見守りの心が増えて貧困も減少するので」と強調する。